

本の万華鏡

推薦者
本田 由紀
(ほんだ・ゆき)

東京大学社会科学研究所助教授、教育学博士、一九六四年生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。九四年から日本労働研究機構「現労働政策研究・研修機構」研究員として数々の調査研究プロジェクトに従事。二〇〇一年から現職。主な著書は、『若者と仕事』、『学校経由の就職』を超えて(東京大学出版会)、『多元化する「能力」と日本社会のハイパー・メリトクラシー化のなかで』(NTT出版)、『「トート」って言うな!』(共著、光文社)など。

『変化する社会の不平等 少子高齢化にひそむ格差』

白波瀬佐和子編 東京大学出版会 二〇〇六年

本書の各章では、急速に少子高齢化が進む日本社会において顕在化しつつある様々な「格差」について、データに基づく丹念な検証が加えられている。取り上げられる現象は、不平等感、世帯構造とジェンダーによる経済格差、年齢無業者、義務教育費の地域間格差、健康格差、金融資産格差、年金制度がもたらす格差など多岐にわたる。

本書のキーワードである少子高齢化とは、子供や若者が減り、高齢者が増えることを意味しているだけではない。それは、両親と子供からなる「典型的な」世帯の比率が相対的に減少し、子供がいない夫婦、一人暮らしの高齢者や若者、女性を世帯主とする世帯など、典型から逸れる「世帯の増加を不可避的に伴っている。さらに少子高齢化と同時に進行している雇用の不安定化は、非正規就業者や無業者など、就業形態に関しても、典型(正社員)から逸れる「存在を大規模に生み出している。そして本書の各章の分析は、こうした、典型から逸れる「人々が高い経済的リスクを負いがちであることを描き出している。

学校を出て正社員になり、結婚して子供を持つという、典型的なライフコースと、経済の順調な成長を前提にすることができていた時期においては、第一に世帯の収入源が安定していたことにより、第二に本人世代に「格差」が存在しても子供世代で相殺できるという可能性が信憑性を持っていたことにより、「格差」の問題は、客観的現実においても、主観的意識においても、それほど苛烈なものとはならずすんでいた。しかし今、そうした過去の前提は失われつつある。その際に、不可欠となるのは、社会福祉サービスによるセーフティネットの整備と、個々人の人生のスタート時における諸条件の均等化およびスタート後の軌道修正チャンスの保障である。しかし社会変化のあまりの急激さから、それらの課題の直視と対策の整備は遅れており、「格差」をめぐる不満ととまどいのみが日本社会に沈殿しつつあるかのようだ。



from editor's room

CEL編集部が推薦する参考図書

- 『雇用改革の時代 働き方はどう変わるか』八代尚宏 中公新書(1999年)
- 『安心社会から信頼社会へ - 日本型システムの行方』山岸俊男 中公新書(1999年)
- 『分配の経済学』石川経夫 東京大学出版会(1999年)
- 『不平等社会日本 - さよなら総中流』佐藤俊樹 中公新書(2000年)
- 『メディア・リテラシー - 世界の現場から』菅谷明子 岩波新書(2000年)
- 『日本の階層システム 6 階層社会から新しい市民社会へ』高坂健次編 東京大学出版会(2000年)
- 『多民族共生社会ニッポンとボランティア活動』田村太郎 明石書店(2000年)
- 『メディア・リテラシーの現在と未来』鈴木みどり 世界思想社(2001年)
- 『自由と秩序 競争社会の二つの顔』猪木武徳 中央公論新社(2001年)
- 『地域再生の経済学 豊かさを問い直す』神野直彦 中公新書(2002年)
- 『在日日系ブラジル人の子どもたち - 異文化間に育つ子どものアイデンティティ形成』関口知子 明石書店(2003年)
- 『若者の感性とリスク - ベネフィットからリスクを考える』土田昭司、伊藤誠宏 北大路書房(2003年)
- 『日本の所得格差と社会階層』樋口美雄、財務省財務総合政策研究所編 日本評論社(2003年)
- 『挑戦 起業家育成への道』塩沢由典編 日刊工業新聞社(2004年)
- 『ソーシャルインクルージョンと社会起業の役割』炭谷茂他 ぎょうせい(2004年)
- 『多元化する「能力」と日本社会 - ハイパー・メリトクラシー化のなかで』本田由紀 NTT出版(2005年)
- 『日本の不平等 - 格差社会の幻想と未来』大竹文雄 日本経済新聞社(2005年)
- 『下流社会 - 新たな階層集団の出現』三浦展 光文社新書(2005年)
- 『グローバル化と社会的排除』アジット・S・バラ他(福原宏幸他監訳)昭和堂(2005年)
- 『希望論』玄田有史編 中公新書ワクレ(2006年)
- 『アメリカ型不安社会でいいのか - 格差・年金・失業・少子化問題への処方せん』橋木俊昭 朝日新聞社(2006年)
- 『論争 格差社会』文春新書編集部編 文春新書(2006年)
- 『平成18年度 経済財政白書』内閣府(2006年)